

○山縣 最初に活動のDVDを見せていただきましたが、お二人のDVDの違いを感じましたか。

○井野 保育園のスタッフは、いつもお母さんと同じ目線で話をしようと思っているのですが、してあげなければという上からの目線が多く、お母さんの自立というところでは、ちょっと弱い。岡本さんは、その辺のところを、パワーいっぱいにお話しされました。

○山縣 いろんな支援の場面があって、いろんなことをやっておられるのですが、ここでプレゼンをするときに何を見せるか。井野さんは、行事とか講座とか、動いているものをたくさん見せた。岡本さんは、お茶を飲んでいたり、弁当を食べていたり、まさに岡本さんも言われた「何もしない」という支援活動を意識的にやる。

保育所や幼稚園の子育て支援活動は、大体井野さんの形が多くなります。NPOの活動は、初期は岡本さんのような形が多かったのですが、ここ数年、行政が市民を巻き込んだ子育て支援と言い始めた途端に、行政のルールが出てこざるを得ないので、変わりました。

そこで井野さんに聞きたいのは、例えば「おしゃべりハウス」は、お母さんたちがゆっくり話ができるものになっているのか、あるいは他に、ここに来るだけで意味があるというお母さんの居場所があれば教えてほしいのです。

○井野 平日の活動は、お母さんたちの願いを取り入れています。空き教室を使った活動だったので最初は土曜日だけでしたが、民間保育園で0歳児の受け入れが少ない年に、園長先生の決断で、平日も活動を行うことにしました。木曜日の「ママタイム」は、それぞれお茶を飲んでおしゃべりする。もちろんこの活動の後、園庭でみんな遊んでいます。やっぱり保育園は、お母さんたちが望んでいる安心できる場所なのです。いつでもいらっしゃいと歓迎している園長先生の姿勢に、私はとても感激しています。

○山縣 保育所を長くやってこられた地域の信頼とか、安定した拠点、たくさんの地域資源を有効に使われていて、保育所がやる支援センターのよさを出しておられますね。

〈質疑応答〉

○参加者 在宅の専業主婦です。私の市では、保育所の園庭はいつも開放していますが、井野さんのように給食の試食などはありません。そういった踏み込んだ施策をどのように進めていかれたのでしょうか。園児と一緒に遊ぶことがなかなかないのですが、私は、園児と保育士と地域の母親と子供と一緒に遊べたらいつも思っているのです。その辺のことを教えてください。

○井野 その辺は私学のバイタリティーで、地域に開かれた保育園をつくりたいという意